

第五次川越市国際化基本計画計画の指標（令和6年度）

○基本目標1：外国籍市民への支援の充実

指 標	単位	基準値 R2年度	実績値 R6年度	目標値 R7年度	進捗状況
日本語教室延べ参加者数 ※1	人	232	4,423	4,300	
市内地区別（全12地区）において対面型日本語教室を運営する割合	割合	2/12	4/12	5/12	

※1 川越市国際交流センターで実施する日本語教室への外国籍市民の年間延べ参加者数。

○基本目標2：多文化共生意識を持った市民の育成

指 標	単位	基準値	実績値	目標値	進捗状況
		R元年度	R6年度	R7年度	
多文化共生の認知度 ※2	%	26.8	29.8	50	

※2「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（日本人市民向け項目）」において、「多文化共生」という言葉を「意味も含めて知っている」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標3：外国籍市民にも暮らしやすいまちづくり

指 標	単位	基準値	実績値	目標値	進捗状況
		R元年度	R6年度	R7年度	
川越市の住みやすさ ※3	%	52.4	54.0	60	

※3「令和元年度川越市国際化に関する市民意識調査（外国籍市民向け項目）」において、川越市は「住みやすい」と回答した割合。次回の市民意識調査にて測定する。

○基本目標4：姉妹・友好都市交流などの充実

交流については、事業内容の性格上、定量的な数値管理になじまないため、数値目標は設定しません。また、新型コロナウイルス感染症の影響や社会情勢の変化に左右されることも見込まれることから、交流事業の内容、方法、成果等について、定性的な評価を行います。

【令和6年度進捗状況について】

地域の国際化の拠点施設である川越市国際交流センターでは、市と市民団体との協働事業として、各団体の特色や専門性を活かした教室を週11コマ展開し、目標を上回る多くの外国籍市民に日本語学習の機会を提供しました。また、国際交流センター以外でも新たに高階公民館で教室が開設されるなど、「外国籍市民への支援の充実」については順調に推移しています。

一方で、「多文化共生の認知度」や「川越市の住みやすさ」については、前回の調査結果を上回ってはいるものの、目標値には届きませんでした。

姉妹・友好都市交流については、セーレム市訪問中学生交流団の派遣や、オッフェンバッハ市青少年交流団及び市民訪問団の受入れ、オータン市訪問団の受入れ、市立川越高等学校と姉妹校のノース・セーレム高校との相互交流など、多くの交流事業が行われました。また、オッフェンバッハ市とのオンラインワークショップも実施しました。